

## 《見方を変える 『回向』》

三月十三日の日曜、日経新聞のサイエンスページに、「隣のウイルス」という特集がありました。副題として、「最強コロナに弱気な一面」という文章がっていました。以下は、要約したものです。概要を紹介します。

人に感染する七種類のコロナウイルスのうち新型コロナウイルスが最も危険なのは確かだが、「怖い」との印象は一面を見ているに過ぎない。視点を変えたとき、最強のコロナからは想像もできない弱さが浮かび上がってきた。

香港大学を中心とするチームの研究によると、二〇二一年秋に現れたオミクロン型は、以前の変異型に比べて複製の効率が下がっていた。研究チームのヤン博士は、オミクロン型はヒトの免疫から逃れるのに一生懸命で、「代償として特に肺の細胞で複製の効率が落ちた」とみる。

新型コロナウイルスは、次々と変異型が出てくることから、順調な「進化」を連想しがちだ。しかし、進化は常にうまくいくとは限らない。思い起こすのは、奥歯の奥から生えてくる「親知らず」だ。人類は、火の利用や道具の発明で調理のすべを学び、食べ物をかみ砕く立派な顎や歯は昔ほど必要なくなった。進化で進歩したはずの人類ですら、必要なくなった親知らずの痛みで泣きを見る。まして

小さなウイルスに、都合の良い進化だけを選ぶ仕掛けがあるとは考えにくい。

オミクロン型は、多くの変異の結果、表面のとげが大きく変異し、人の細胞に入り込むのにてこずるようになった。極端な変異は、不具合と隣り合わせだ。そう想像するだけで世界観が変わる。

オミクロン型は、従来痛めた肺に代わり、のどのような気道を好む。衰えた能力でかろうじて侵入できるのが上気道だけとしたら、「進化」どころか「窮余の策」だ。

以上が、記事の概要の紹介です。

私たちは、新しい変異型が現れる度に、より怖い敵が現れたと恐怖に怯えてきました。しかし、この記事にあるように、新型コロナウイルスは最強のコロナウイルスですが、無敵ではなく弱点があることも分かってきました。

自分の視点だけで見ていると、物事の本当の姿は見えにくい。相手の立場からも見てみると、もっと多くの事実が分かる。当たり前のことですが、そういう事ではないでしょうか。